



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ノーベル化学賞の受賞をめぐるCoSTEPの科学技術コミュニケーション活動
Author(s)	杉山, 滋郎
Citation	ニューズレター, 85, 32-34
Issue Date	2010
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45751
Type	report
File Information	Newsletter_CoSTEP.pdf



科学技術コミュニケーション CoSTEP

ノーベル化学賞の受賞をめぐる CoSTEP の科学技術コミュニケーション活動

今年 10 月 6 日の夕刻、鈴木章氏らに 2010 年ノーベル化学賞が授与されると発表がありました。これを機に CoSTEP（科学技術コミュニケーション教育研究部門）では、この受賞をめぐって積極的に情報発信を行ないました。その概要を紹介します。

まず、速報

夕方 7 時からの CoSTEP の授業にむけ受講生が教室に集まり始めたころのことです。「ノーベル化学賞を受賞するのは誰だろう」と受講生の一人がつぶやいたのをきっかけに、ノーベル財団のウェブサイトを受賞者発表の動画を見始めました。やがて北大名誉教授である鈴木章氏も受賞者の一人だとわかります。

CoSTEP のスタッフはただちに授業を休講にし、速報態勢を取りました。2 年前に広報課の依頼で用意していた、鈴木章氏と宮浦憲夫氏（鈴木氏の共同

研究者）へのインタビュー映像をインターネットで配信し始めました。そして、これまた 2 年前に作成していた、鈴木氏の業績をわかりやすく解説したプレスリリースもウェブサイトに掲載しました。

夕方 7 時半頃にはこれらの作業を終えましたが、ウェブサイトにもこうした情報があることを広く知らせる術がありません。テレビのニュースを見ていると、午後 8 時から学内で記者会見があるようです。その記者会見の場を利用することを思いつき、会見に同席していた岡田理事に「CoSTEP のウェブサイトにもわかりやすいプレスリリースがある」旨のメモを手渡しました。岡田理事は記者会見の最後にメディアの方々に紹介してくださいました。

このころから CoSTEP のウェブサイトへのアクセスが急増し、メディアからは「もっと詳しい説明を聞きたい」「映像を TV 番組の中で使わせて欲しい」などの問い合わせや依頼が深夜まで殺到しました。

その後10月8日には、鈴木氏の姿を写真で紹介する「スライドショー」を日本語版と英語版で作成して公開しました。数日後にはノーベル財団から申し入れがあり、英語版に同財団のウェブサイトからリンクが張られました。

これらノーベル賞関係の記事や映像に対するアクセス状況をみると、CoSTEPのウェブサイトのページビュー数は、普段は1日あたり5千前後でしたが、10月6日は約4万、7日は約6万と急増しました。特に映像公開直後はアクセスが集中し、サーバがつながりにくくなるほどでした。そのためミラーサーバを用意しました。

業績に光をあてる

鈴木氏の受賞が発表されたあと、「鈴木氏は小さい頃から読書が好きだった」「特許を取らなかった」など、エピソードがメディアに溢れました。その一方で、鈴木氏がノーベル賞を受賞するに至った研究そのものについて、内容や意義をきちんと説明した報道はほとんどありませんでした。

そこでCoSTEPでは、こうした点について積極的に情報を発信していくことにしました。さっそく広報課を通して鈴木氏と宮浦氏にインタビューを申込み、10月20日に工学部応用化学科の図書室と実験室で計1時間半にわたって取材しました。また25日にノーベル財団からの取材クルーが理学部・工学部・創成研究機構などで取材するとの情報ももらい、その取材に同行させてもらいました。CoSTEP受講生にはインタビューでの質問事項を整

理してもらったり、取材「現場」を体験してもらったりと、学習の機会を提供しました。

取材活動と並行して、アニメーションの制作にも取りかかりました。きっかけは、宮浦氏が「クロスカップリング反応で重要な役割を果たしている触媒をカニにたとえたアニメーションを作りたい」とおっしゃったことです。宮浦氏があるテレビ番組に出演するにあたり提案してみたものの、採用されなかったというのです。「それならばCoSTEPが取り組みましょう」ということで、10月18日に宮浦氏とCoSTEPスタッフ（グラフィック・デザイナー）が打合せしたのを皮切りに、のちにはFLASHアニメーションを作成する業者の方にも参加してもらって、宮浦氏と打合せを重ねました。CoSTEPスタッフが中心になってナレーションも入れ、11月初めに完成しました。

映像による情報発信と並行して、文章による情報発信も必要だと考え、鈴木氏の研究の本質的な部分について「中学生でも分かる」ような、また鈴木氏の業績を歴史的な流れの中で理解することのできるような「本」を制作することにしました。

20日に実施したインタビューに加え、鈴木氏の原著論文や、鈴木氏・宮浦氏の回想記、工学部の歴史を記録した書などを独自に調査し、原稿の執筆を進めました。本の形態は、速やかに、しかも費用をかけずに出版できることから「電子書籍」とすることにしました。動画を本の中に組み込むことができるという、電子書籍ならではの利点も考慮しました。本へのコメントをTwitter上でのつぶやきとして発



写真1 鈴木氏、宮浦氏へのインタビュー（10月20日）

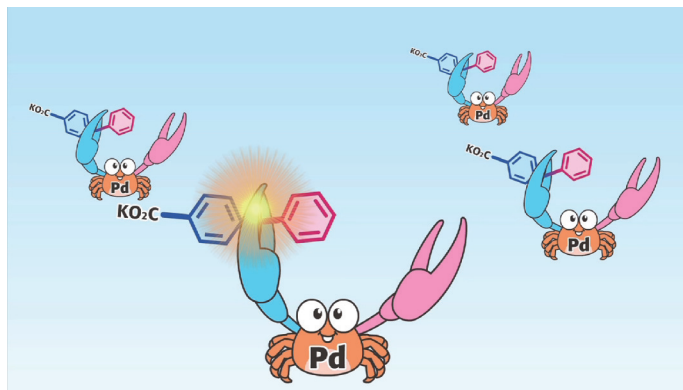


写真2 触媒の働きを解説したアニメーション

信できるような仕掛けも用意しました。

11月10日、CoSTEP ウェブサイトに特設ページを設け、以上の作品群を一斉に公開しました。プレスリリースをうけて、新聞8紙、テレビ3社が取り上げ、共同通信の配信により、いくつかの地方紙にも掲載されました。また、IT系のニュースサイト ITmedia が注目してくれたおかげで、各種のWeb ニュースでも大きく取り上げられました。

CoSTEP ウェブサイトへの1日あたりページビュー数も、11月10日は約3万4千、11日は約4万6千と大きく上昇しました。11月末までの総数は約31万でした。

電子書籍や、触媒の働きを説明したアニメーションは「わかりやすい」と好評を博しましたが、「電子ブックは読みにくい」「生徒たちに読んでもらうには紙の本が一番」という意見も多くありました。

そこで紙の書籍としても出版することにし、発行してくれる出版社を探すとともに、Twitter やブログなどに書かれたコメントを調査し、その意見や要望にできる限り応えるよう、内容の充実を図りました。多くの人に読んでもらえるよう、手ごろな価格にするとともに、収益をあげるのが目的ではないので、印税は全額「科学技術の研究者と国民との双方向的コミュニケーションを促進する」活動を支援するために、公益的な団体などに寄付することにしました。こうしてできあがったのが『鈴木章 ノーベル化学賞への道』（北海道大学出版会、12月15日発売、500円）です。

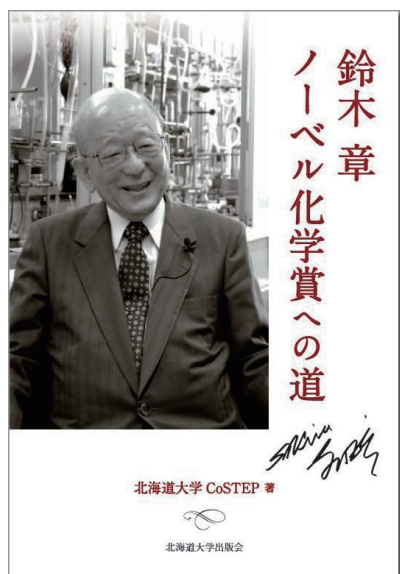


写真3 CoSTEP が作成した書籍

科学技術コミュニケーターの役割

今回、ノーベル賞受賞をめぐる一連の情報発信を体験することで、「科学技術コミュニケーター」という専門的な人材が大学内にいることの意義をあらためて実感しました。

研究の内容や意義についての情報発信は、科学技術コミュニケーターの得意とする領域です。大学内にいる科学技術コミュニケーターであれば取材や資料収集の面でも有利なことが多いでしょう。大手メディアとは違う、学内の科学技術コミュニケーターならではのユニークな情報発信が可能です。

また、研究者による情報発信をサポートするという点でも、科学技術コミュニケーターは大きく貢献できるでしょう。今回の経験でいえば、宮浦氏が抱いていたアイデアをもとに、触媒の働きを説明するアニメーションを10日余りで作りあげることができたのは、グラフィックデザインや映像制作を専門とするCoSTEP スタッフがいたからこそです。科学的な厳密さとわかりやすさの折り合いの付け方について助言をしたり、宮浦氏の“こだわり”をFLASH アニメーションを制作する業者に伝えたりと、立場や知識の違う両者の間を橋渡ししたのです。

一般市民の意向を汲み取ったコミュニケーションの実現という点でも、科学技術コミュニケーターは重要な役割をはたすでしょう。今回の例でいえば、いったん電子ブックを公開し、それに対する一般読者のコメントをふまえて次の段階の情報発信に進むという、双方向的コミュニケーションを目指した作業は科学技術コミュニケーターならではのでしょう。

一般市民の声を聞くのに、今回はTwitterを活用したほか、インターネット上の数多くのブログに書かれた感想をサーベイするという手法も使いました。これら、通常の大学広報にはない手法を使ったのも、科学技術コミュニケーション教育の改善に向け“新しいツール”の可能性に絶えず目を向けている教員集団ならではのだったと言えます。

(科学技術コミュニケーション教育研究部門長、
理学研究院 教授 杉山 滋郎)